

## 第4回 伊勢湾漁業影響調査委員会 議事要旨

1. 開催日時：平成27年6月25日 13:30～16:00
2. 場所：TKP ガーデンシティー名古屋新幹線口 バンケットホール7B
3. 審議内容：重要な漁業生物の現地調査結果  
平成27年度の検討内容  
平成27年度の伊勢湾シミュレーターの検討内容
4. 委員の発言要旨
  - ノリの色落ち、病傷害、食害等の現象や育苗期の栄養塩について、本調査だけでは不十分なので他機関への聞き取りや他の調査結果を収集し検討すること。
  - メイタガレイは湾口外海で産卵という文献情報だが調査からは湾内産卵の可能性も高い。底曳網の重要な魚種なのでマコガレイを対象にした調査手法を、メイタガレイやイシガレイへの適用も検討してほしい。
  - カレイ類の着底場が空港島西側に形成されてきていることがわかってきたが、その場が伊勢湾の中でどの程度重要な場なのかを検討してほしい。
  - 護岸生物調査や藻場・干潟調査についての主目的は、いつ、どのような種がどれくらい出てくるかを把握することが優先。曳網距離、位置等を最初から決めて調査をするのではなく、現場条件により柔軟に対応してほしい。
  - 護岸生物調査において、将来護岸の生物生産機能を評価するにあたり藻場だけでなく植物プランクトン、付着藻類や懸濁物等についても調査し、取りまとめてほしい。
  - 浮遊幼生シミュレーションにおけるアサリ母貝の産卵強度は今は水温の関数になっているが、肥満度によっても産卵量は変わる。母貝数、産卵強度、産卵時期もデータが少ないため推測により設定している部分が多い。したがって再現性の検証手法としては計算結果と現地調査結果を対比し感度解析的に検証していくのはやむを得ない。
  - 春生まれのアサリ浮遊幼生の再現性は向上したが、資源的には秋生まれが重要である。秋生まれの再現性が三河湾では悪いが、今後さらに秋生まれの再現性の向上も検討すべきである。

- 底質調査において、硫化物は強熱減量等と違う挙動を示すことがあるため、分析しておいた方がよい。
- 逆時間シミュレーションによる産卵場所の推定は海域固有の移流と拡散のバランスにより精度が異なってくるのは当然だが、生まれたばかりの仔魚の採捕が困難なためこの方法を試行する以外に有効な推定方法は今のところない。前期仔魚から後期仔魚くらいまでの遡りは可能ではないかと思われるので試行計算した結果を見て再度判断する必要がある。